

内部評価の結果

【評価結果】

事業継続

【評価理由】

本市では、令和4年3月に物流拠点構想を策定し、「物流基盤の強化による効率的な物流の実現」を方向性の柱の一つに挙げ、陸・海・空の物流インフラの機能強化に取り組んでいる。

近年、北九州空港跡地産業団地においては、自動車関連企業などが進出しており、マリナクロス新門司や北九州臨空産業団地など複数の産業団地においても、同様に多くの企業が進出している。また、新門司フェリーターミナルにおける関東方面への新規航路開設や、今後予定されている北九州空港滑走路 3,000m 化など物流拠点の拡充がますます進んでおり、本市経済のさらなる発展が期待されている。

このような中、門司区北部から小倉南区方面へ向かう大型車は、本路線（恒見朽網線）の区間が未整備のため、既設の幹線道路である（主）門司行橋線と国道10号を通行している。両路線は、朝夕の渋滞が激しいため、物流機能が阻害されており、生活系交通についても円滑な流動が確保されていない状況である。また、門司及び小倉北方面から北九州空港への通行も、渋滞する両路線しかない状況であり、アクセスの利便性が確保されていない。さらには、曾根新田地区内の農道（通学路）を抜け道として通過する車両が多いため、歩行者の安全性に支障をきたしている状況にある。

都市計画道路6号線（主要地方道 恒見朽網線）道路改築事業では、このような課題の解消と、新たな広域物流ネットワークの構築による本市経済の活性化促進を目的とし、未整備区間（門司区新門司三丁目～小倉南区大字朽網）約 7.9kmの整備を行うものである。

平成22年度に事業着手し、南から曾根新田工区、吉田工区、恒見工区の3工区に分け整備を進めているが、盛土材の変更、竹馬川渡河橋の計画見直し、労務費・資材価格等の上昇の影響により、事業費の見直しが必要になった。また、事業期間についても、用地取得において相続に係る権利者等の調査及び協議に時間を要していること、及び用地取得完了後の工事工程等精査により、見直しが必要となった。

これらの見直しを踏まえても、恒見朽網線は、周防灘沿岸部の物流拠点を結び本市の広域物流ネットワークの構築を図るうえで、極めて重要な道路である。また、緊急輸送道路のネットワークも構築されることから、危機管理体制の向上を図るうえでも重要な路線であり、その整備効果は非常に高い。以上の事由から、公共事業調整会議において原案のとおり事業を『継続』することを対応方針として決定した。

なお、公共事業調整会議では、労務費や資材価格等の上昇分の取扱いや当初事業費算定時の土質の予測についての意見があった。これについて、今回、事業費の変更要因となった労務費・資材価格等の上昇については事業進捗に合わせ把握していくとともに、事業費算定の予測についても、既往資料を基にできる限り精度の高い設計を行っていくこととする。

また、今後とも盛土の流用土確保や、新技術・新工法の情報収集及びその活用検討を積極的に進めるなど、引き続きコスト縮減に努めていく。